

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473300182	事業の開始年月日	平成12年3月28日
		指定年月日	令和2年4月1日
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会		
事業所名	高齢者グループホームことぶきの里		
所在地	(〒226-0021)		
	横浜市緑区北八朔町1856番地		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・日誌や報告書、作成資料等の軽減に努め、入居者との関わりを増やし、レクリエーションや外出、ケア、様子観察等の時間に費やす様に心掛けている。散歩や外出行事、地域の交流の機会等を増やし、入居者の方々に外の空気を感じていただき、ホーム以外での「顔」を覗ける様に努めている。近所のボランティアの方々や小学生等を招いたり、地域の行事等にも参加する事で、人との繋がりを大切にしている。

・見守りや声掛け等による残存能力の維持向上と、「何でも一緒に行く。」を基本に捉え、コミュニケーションや生活等の面で意思の疎通を図り、穏やかな関係を築き、最大限に自立支援に努めている。また、入居者の要望や希望等を多く傾聴する事で実現に繋げているという点で、家族（家庭）により近い雰囲気（入居者の方々の心に寄り添う）をもったサービスの実現に力を入れている。可能な限り、入居者一人一人に合わせた生活を常に心掛け、見守り、声掛け、接する態度等、その都度対応している。

・職員が、一つの目標に向かって一致団結し、より良い介護の実践へ向けて取り組み、当事業所で働く事に喜びや達成感を得られるような環境を作り出す。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月20日	評価機関 評価決定日	令和8年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横浜線および市営地下鉄グリーンライン「中山駅」からバスで10分、または東急田園都市線「青葉台駅」からバスで5分の場所に位置しています。緑豊かな閑静な住宅街にあり、落ち着いた生活環境に恵まれています。

【優れている点】

入居者主体という理念に基づき、アセスメントや日々の関わりを通じて一人ひとりの意向や残存能力を丁寧に把握しています。「できることは何でも職員と共に行う」という方針のもと、生活リハビリテーションの視点を持った支援を実践しています。また、同敷地内にある高齢・障害それぞれのグループホームと取り組みを共有し、法人全体の知見を活かした環境づくりに努めています。地域社会とのつながりにおいても、周辺の清掃活動や散歩時の挨拶などを継続し、地域の一員としての関係維持を図っています。

【工夫点】

利用者だけでなく職員も心身にゆとりを持って過ごせるよう、全職員が意見を出し合い、業務改善とケアの質向上を常に検討しています。環境設定や支援方法においては、個々の特性に合わせることで「自宅のような安心感」の醸成に注力しています。身体機能面では、一人ひとりの排泄パターンを精緻に把握することで、画一的なケアを排し、排泄の自立を促す具体的な支援に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホームことぶきの里
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の業務につなげる様にしている。 事業所理念を事務所等へ掲示、基本方針として根幹の部分なので日常的に共有を心掛け、話を行っている。 	<p>法人の理念に基づき、事業所独自の理念を策定しています。事務所への掲示に加え、会議や研修の場を活用して職員間で共有・再確認を継続しています。現場では、入居者の残存能力を活かすことや意思決定を尊重することを重視し、一人ひとりの望む生活を実現するための支援を日々実践しています。</p>	<p>理念を事業所として目指す方向が明確となるような文言とすることで、より入居者・家族・職員に理解を深めていくことが期待されます。</p>
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 例年、地域の方々等と、「地域ボランティア」「体操教室」「敬老会」「運動会」「活け花ボランティア」等を実施している。 地域の行事、自治会行事等に参加したり、常に挨拶を心掛け、日常的に交流をしている。 	<p>地域の自治会に加入し、地域の情報の確認を行っています。入居者と職員による地域のごみ拾いなどは継続していますが、感染症の影響以降、地域の行事への参加やボランティアの受け入れはできていません。今後は状況を見極めながら、地域交流を再開していく予定としています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 例年、近隣GH、包括支援センター、区役所等との協働事業を行っている。 地域の活動等に参加、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の方々が無難に、聞いていただける様に努めている。 <p>地域による認知症講習会等への協力。</p>		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 例年、地域の情報もいただいて、活用させていただいて下ります。 運営推進会議を定期的に開催し、参加者の方々より意見等をいただき、質の向上に努めている。 	<p>入居者家族の代表、地域住民の代表者、区役所職員、地域ケアプラザ職員による運営推進会議を2ヶ月に1度開催しています。対面での集合が困難な期間においても、電話連絡等を活用して施設の情報発信や地域からの意見収集を継続し、外部とのつながりやネットワークを維持した運営を行っています。今後は対面形式での再開を視野に入れ、さらなる連携強化を目指しています。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に緑区役所や近隣の区役所と連絡や相談、報告等を行っていて、情報交換等を行い協力関係を築いている。 	<p>緑区生活支援課職員と密に連絡をとり、入居者の生活状況に合わせた支援体制を整えています。また、ホーム長は「横浜高齢者認知症グループホーム連絡会」や「神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会」へ参加しています。こうした活動を通じて、自事業所のみならず地域全体の課題抽出や解決に向けた検討に加わり、広域的な視点を持った運営に努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束や不適切なケア等について、常に意識している。 ・多くの職員を研修会等へ参加し、望ましいケアの実践に向け、日々取り組んでいる。入居者やご家族の望みを考慮し、安全安心を最優先に考え、在宅ケアを基本としている。 	ホーム長は法人内施設の職員で構成される身体拘束防止委員会に参加し、組織的な取り組みについて検討しています。事業所においても定期的に研修を実施し、具体的な更衣の手順や言動が拘束に該当しないかを確認し、入居者の自由を制限しないための代替案を検討しています。こうした学びを繰り返すことで、身体拘束を必要としないケアの実践につなげています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアノートや状況報告書を活用し、身体のアザや傷等を記入報告し、見過ごす事がない様に注意を払っている。 ・勉強会や研修会等へ参加し、望ましいケアの実践に向け、日々取り組んでいる。 	事業所内で定期的に虐待防止研修を実施し、職員の意識向上を図っています。あわせて「自己点検シート」を用いた定期的な振り返りを行い、日々の実践方法を客観的に確認する機会を設けています。不適切な支援や声かけが見受けられた場合には職員同士で注意しあう体制を整え、虐待が見過ごされないよう組織全体で留意しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者個々の必要性に応じ、学んだ事柄や資料等を手配し、活用出来る様に支援している。 ・勉強会や研修会等へ参加し学んだことを伝達している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。 		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会等にアドバイザーの方が参加し、本人や家族と交流し、話しや意見、要望を聞き、運営に反映させている。 ・日々の来里時等に、家族からの用件や要望、意見を聞き必ず管理者へ伝える。 	入居者の意見や要望は、居室での対話や入浴時などの個別場面において聞き取っています。家族や後見人等からの意見についても、面会時の直接確認に加え、電話やメール等を活用して幅広く収集しています。寄せられた意見や要望は職員会議で検討し、実現可能な内容は迅速に対応することで、入居者の生活の質向上と信頼関係の構築に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に話をしやすい環境を作る努力をしている。意見や提案が出てくるのを待つだけでなく、聞き出す、吸い出す事ができるよう務めている。 ・話しかけやすい管理者像を目指している。 	職員全員が同時に集合する機会に限られる中、伝達ノートやメモを活用することで、勤務時間を問わず誰もが意見を出せる環境を構築しています。また、ホーム長が日頃から職員へ声をかけ、業務上の気づきや提案を気兼ねなく伝えられる関係性の構築に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションや向上心を維持継続出来る様に、職場環境や条件の整備に努めている。 ・各職員が、時間に追われたりせず業務へ集中して取り組める様にしている。 	職員が楽しく働きやすい環境を整えることが、入居者の穏やかな生活に直結すると考え、記録方法や業務内容の精査を行っています。常に職場環境の改善を図ることで、事務的な業務を効率的にこなし、入居者一人ひとりと向き合う時間を十分に確保できる体制づくりを推進しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、出来るだけ職員全員が研修に参加し、学び得た内容を日々の申送りやケアカンファレンス等で報告をして、知識の共有を図っている。 	職員の知識や技術の向上を図るため、法人内研修や施設内研修、さらには外部研修にも参加できるような勤務体制を整えています。新入職員に対しては、先輩職員が共に業務にあたりながら助言や指導を行うことで、日々の実践を通じた着実な成長を支えています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内勉強会等も実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 ・緑区、横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会、日本認知症グループホーム協会等の活動や研修会等に参加し、介護職員同士の横の繋がりを持つよう心がけている。 	/	/
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。 	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前に、不安や疑問点等を、十分に説明し話し合い、安心して入居し続けていただける様に、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人のやる気を大切にし、自立支援に努めている。 ・楽しく毎日を過ごせるように入居者同士で支えあえるような関係性を築く為の手助けを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と家族の絆を大切にし、一緒に本人を支える様に心掛けている。 ・今、家族が求めているニーズを洗い出し、必要に応じて協力をしてもらえるよう情報共有を行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・手紙、年賀状のやり取りや体操教室等。 ・本人の声を聴き、馴染みの物や場所、活動等を維持出来る様に支援している。	入居前から付き合いのある友人や親類等と、手紙や年賀状のやり取り、電話での会話を継続できるよう状況に応じた支援を行っています。入居前の習慣や趣味の活動についても、一人ひとりの意向を尊重し、可能な限り実現できるよう取り組んでいます。以前から好んでいた場所への夕食を実現するなど、馴染みの場との関係を維持し、生活に彩りを持てるよう工夫を重ねています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者同士が支え合える様な支援に努めている。 入居者同士の関係を最大限に把握（アセスメント）し、家事やレクリエーション、外出行事等を通して入居者同士の関係を築ける様に努めている。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> サービス利用の終了をせざるおえない場合も、最大限に適切に誠意ある対応を心掛けている。 		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 観葉植物や花、好みの外食や買い物等。一人一人暮らしの中での楽しみを見つかる様に努めている。 入居者の話しをよく聴き、一人一人の希望や要望、意向を把握し、入居者本位を心掛けている。 	管理者は、入居者が残りの人生を健康で、楽しみながら過ごせるよう支援することを職員に伝え、それを実践するよう指導しています。職員はこれを受け、一人ひとりの希望や要望を日常の関わりの中で把握し、ケアノートへの記録や申し送りを通じて全職員で共有しています。些細な変化や意向を逃さず把握し、個々の生活に反映させることで、思いに寄り添った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居からの新しい発見や情報等が有れば追加し、アセスメントやケアプラン、日頃の対応等へ反映している。 入居時、以前の生活歴や情報等を家族よりいただき、事務所へ掲示し情報の共有を図っている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の中で注意、把握している。個別ケアノート等で情報を共有し、アセスメントやケアプラン等にも反映し支援している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月ごとにケアプランの見直しを実施している。 ・毎月、ケアカンファレンスを実施。職員全員で意見を出し合いアセスメントを抽出し、本人に合ったケアプラン等を作成、日々の状況に応じて対応している。 	<p>独自シートに基づき、基本情報の把握からアセスメント、介護計画作成までを一貫して行っています。計画は3ヶ月ごとに更新し、「生活援助計画」として取りまとめています。日々のモニタリング結果は、入居者ごとのケアノートに記入するだけでなく、全員の一日の様子をまとめた業務日誌にも記録しています。これにより、一人ひとりの微細な変化を全職員で共有し、計画の質を高めると共に、チーム全体で統一した支援につながっています。</p>	<p>ケアカンファレンスは令和7年3月を最後に開催が途絶えています。利用者情報の共有と介護計画作成のベースはケアカンファレンスとなることから、いち早いケアカンファレンスの再開が期待されます。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・些細な事でも日誌や個別ケアノート、連絡帳等を活用し、情報の共有を行い、より良いケアへつなげるよう努めている。 	/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の要望を達成できるよう取り組みを行っている。 ・職員間で意見を出し合うことで、結果として達成が困難になった場合でも、満足ができるようなセカンドプランや妥協案等の対応の取り組みを実践できるようにしている。 	/	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、馴染みの教室、麻雀サロン、体操教室、地域の行事、自治会の祭りや行事等に、参加出来る様に支援している。 	/	
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、施設に入っている往診医の利用を進めているが、家族の要望や希望によっては、元々のかかりつけ医を継続することも可能、安心した医療を受けられるよう支援している。 	<p>入居者がこれまでのかかりつけ医を継続することも可能ですが、現在は全入居者が協力医療機関の訪問診療を月2回受診しています。主治医の専門外の診療科の受診が必要となった場合には、事業所が受診手配を行い、送迎を含めた受診対応を担っています。主治医との連携と受診支援により、健康上の変化に早期に対応できる体制を維持しています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常的に本人の様子やバイタルを計測しており、異変などあれば随時主治医の病院に連絡を取り指示を受けるようにしている。些細な変化の場合は受診や往診、健康管理（医療連携）の時に伝達しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、医師や病院関係者等と連携し、本人の治療や経過等を良く観察し、退院後の生活を検討、支援している。また、入院時より往診医へ報告、相談し、退院後も安心して暮らせるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・常日頃より本人の意見、ご家族の方々と話しをしている。 ・入居時より、今後起こり得る事柄等を説明し、話し合い必要な関係者等と支援出来る体制を心掛けている。	入居時に重度化や終末期を迎えた際の対応内容を説明し、本人や家族の意向を踏まえた同意書を取り交わしています。状態の変化が生じた場合には、主治医による医学的判断を共有した上で、家族が抱く不安や願いを汲み取り、終末期ケアの方針を確定します。施設での看取りを行う際は、再度同意書を取り交わすなど、各段階で真摯な対話を重ねることで、本人と家族の想いを尊重した最期の支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的に職員等へ救命救急の講習会等へ参加、受講を実施している。 ・定期的に確認し、応急手当の方法を事務所に掲示し、常時観れる環境を取っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・自治会の消防訓練や研修等を定期的に受けている。地域との協力体制を築いている。 ・定期的に、日勤帯や夜勤帯の防災訓練を行っており（年2回以上）災害が起きた時に冷静に行動できるよう練習を重ねている。	年2回の法定避難・消防訓練に加え、BCP（事業継続計画）に沿った研修や机上訓練を実施しています。訓練後には毎回振り返りを行い、抽出された課題をもとに計画のさらなる見直しや改善を重ねています。また、隣接施設と共同の屋外倉庫に非常食や災害用備品を保管し、リストを用いた期限管理を行っています。近隣との協力関係を維持しつつ、日常的な訓練と備えを継続することで、有事の際に入居者の安全を守るための体制づくりを推進しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・声掛け時、尊重を尊重しプライドなどに配慮している。その都度、適切な声掛けや対応となる様に職員同士で気を付けている。	管理者は、入居者の人格を尊重した接遇を徹底するよう職員に求めています。不適切な声掛けや応対が見受けられた場合には、職員同士で場所を変えて注意・指導を行うことで、職場全体の意識向上を図っています。また、入浴や排泄介助におけるプライバシー確保のため、カーテンや扉の施錠確認、適切な声掛けの手順など、基本動作の一つひとつを確実に実施することを徹底し、入居者が安心して過ごせるよう配慮しています。	個人情報ファイルの保管方法については、鍵のかかる書庫での管理が望まれます。前回の訪問調査時にも示された期待事項であり、引き続き継続的な取り組みを進められることが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の希望やニーズを引き出せるように心掛けている。 ・本人の思いを尊重し職員が決めるのではなく、自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者の要望を聴き、希望に添える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出来る限り支援している。服選びや誕生日プレゼント、買い物等、なるべく本人と出掛ける様にしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は食べるだけではなく、作っている時の音や香りなど工程の部分でも楽しむことができるので、入居者がたずさわれるよう支援する。 ・出来る限り、自立支援を促し、献立や外食等に反映している。	通常の食事は業者からのレシピ付き食材を施設内で調理し、作り立てを提供しています。入居者はテーブル拭きや下膳など、できる範囲で役割を果たし、生活の主体的参加を支援しています。また、業者による行事食に加え、施設独自のイベント食の企画や出前、外食の実施など、入居者の希望を反映させた多様な機会を設けることで、日々の食事に彩りと楽しみを持てるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて食事を別盛にしたり、飲物やゼリー、果物等で食事量や水分量が減らない様に工夫している。一人一人の状態にあった支援をしている。 ・食事量、トイレの回数、水分量等、変化する習慣に応じた支援をしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、清潔保持ができるように支援している。また食後、個々の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを心掛けている。 		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や行動からの排泄の予測、排泄パターンの理解に勤めている。 ・可能な範囲で、トイレでの排泄をしてもらえる対応を実施し、困難になった時の手段としてパットやオムツを使用し、排泄を支援している。 	業務日誌に一人ひとりの排泄状況を記録し、個々の排泄パターンの把握に努めています。自力での排泄が可能な入居者には、記録から導き出した適切なタイミングでのトイレ誘導を行い、自立した生活の維持を支援しています。また、おむつを使用している場合においても、失禁を未然に防ぐことを重視し、排泄の予兆を捉えた観察や声掛けを行うことで、入居者の不快感の軽減と自尊心の保持、清潔な状態の維持に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や適度の運動等を心掛けている。また、食事は食物繊維、牛乳、ヨーグルトドリンク、コーヒー、プルーン等で予防に取り組んでいる。 ・必要によっては便を柔らかくする薬の使用も検討する。 		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、入居者の方々に合わせた対応を心掛けている。基本的に、毎日入浴を行っている。 	入浴の実施にあたっては、職員が時間に余裕を持って一人ひとりと向き合えるよう、ゆとりを持ったスケジュールを編成しています。流れ作業にならないよう配慮し、入浴の時間を、穏やかな会話を通じて入居者のさりげない思いや願いに触れる貴重なひとときとして活用しています。身体の清潔保持のみならず、心からの充足感を得られるような環境づくりに努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の日々の様子を日誌や個別ケアノート、連絡帳、申送り等で職員が把握し、状況に応じて休息や安眠出来る様に支援している。 本人の意思を尊重し、生活のリズムに合わせて対応を心掛けている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 服薬後の症状の変化の確認に努めている。家族や医師と相談し、必要以上な薬の処方を受けている。 薬の説明書を参考にし、把握している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 例年、家事、レクリエーション、外出、買い物、散歩、体操、趣味、編み物等、本人や家族よりいただいた情報を活かし、一人一人が楽しみながら行える様に支援している。 		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 散歩、買い物、日向ぼっこ、外食、外出、個別外出、季節に応じた花見等、その支援が喜ばれる様に心掛けている。 入居者一人一人、車椅子の方でもやり方等を工夫し、最大限に取り組んでいる。 	日々の活動として、午前中の体操後に外の空気に触れる機会を設けています。散歩コースは、入居者の体力や歩行能力に応じた複数のパターンを用意し、一人ひとりの状態に合わせて適切に選択することで、安全かつ無理のない機能維持につなげています。また、墓参りや外食などの特別な外出については、家族や地域の協力を得ながら実現しています。季節を感じる行事としての外出についても、状況に合わせて再開に向けた準備を進めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> お金の管理をしていただくことは難しいため、施設や家族で対応しているが、外出した際の購入した時の支払いなど、お金を扱ってもらう機会の提供ができるように配慮している。 		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・基本的にオープンに対応している、希望があれば電話もできるし手紙を書くことも支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・一人ひとりに合った対応を心掛けている。 ・五感を刺激し、生活の音を大切にしている。掃除、テレビ、音楽、活け花、季節行事、年間行事、BGM等居心地のいい空間等をかもし出す様にしている。	特別な場所ではなく、普段通りの何気ない空間こそが入居者の居心地の良さにつながると考え、落ち着いた共用空間の維持に努めています。職員が伸び伸びと業務にあたれることが、入居者への穏やかな関わりを生むという認識のもと、台所へのエアコン設置による個別の温度管理など、職場環境の改善にも取り組んでいます。こうした配慮により、入居者と職員が共に自然体で過ごせる環境づくりを推進しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・本人の気に入った場所で、過ごしていただける様に対応をしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの物、使い慣れた物や好みの物等、本人の希望を考慮し、居心地の良い空間となる様に工夫している。	居室が入居者にとって最も安全な空間となるよう、最大限の配慮を行っています。入居にあたっては、これまで使い慣れてきた安全な物品の持ち込みを推奨し、生活の連続性を大切にしています。その上で、一人ひとりの志向や好みに応じた設えやレイアウトとなるよう個別に調整を行うことで、自分らしく、心からくつろげる環境づくりに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人に合わせた対応や支援等を心掛けている。		

2025年度

事業所名 ことぶきの里

作成日： 2026年 2月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	ケアカンファレンスは令和7年3月を最後に開催が途絶えています。利用者情報の共有と介護計画作成のベースはケアカンファレンスとなることから、いち早いケアカンファレンスの再開が期待されます。	ケアカンファレンスで、入居者の情報や状態や意見を職員からくみ取り、より良いケアを実践できる様、介護計画等をまとめ一貫した物とする。	カンファレンスの日を月に1回、第3水曜に設定し1月から再開した。以降継続的に月1回を実施する予定。	3ヶ月
2	1	理念を事業所として目指す方向が明確となるような文言とすることで、より入居者・家族・職員に理解を深めていくことが期待されます。	ホームとしてより実践的な理念を掲示していたが、言葉が指示的な意味合いが強く出ている為、管理者交替のタイミングなので変更する。	具体的で実践したい目標をカンファレンスで話し合い文言を決める。	3ヶ月
3	17	個人情報ファイルの保管方法については、鍵のかかる書庫での保管が望まれます。前回の訪問調査にも示された期待事項であり、引き続き継続的な取り組みを進められることが期待されます。	書棚について、開かなくする事は出来たが、鍵を掛け鍵が無いと開かない仕様では無かったので施錠可能な鍵をつける。	ホームセンターで、施錠可能な器具を購入し取り付けた。	1ヶ月